

2014 年度 立命館大学大学院
先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題

論文

入試方式	領域	試験時間	解答方法
一般入学試験	表象	90分	問題 1、問題 2、 問題 3（8 題のうち 4 題を選択） を解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 解答は設問ごとに指定の答案用紙を使用すること。
2. 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

*この問題冊子は、試験終了後に回収します。

2014年2月8日(土)実施

2014年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 2月一般入学試験
(表象領域)

問題1、2、3を全員が解答すること。

問題3は全8題のうち4題を自由に選択して解答すること。

解答する際の文字数は特に指定しないが、解答用紙の表面に問題1と問題2の解答が約半分ずつに収まるように、裏面に問題3の解答が収まるようにしなさい。

問題1

次の引用箇所を読み、内容を理解して、「自分の言葉で」（重要なところをそのまま引き写すのではなく、言葉をうまく言い換えるなどしながら）要約しなさい。

わたしたちは、もはや、あるいはまだ、〈仮面〉に対する生きた感覚をもたない。たとえば、博物館のガラスケースの中に並べられた伎楽面は、いまや純粹の観賞用にすぎず、そこにせめて生きた謎を感受する程度の想像力すら、わたしたちは大方失いはてているようにみえる。

仮面、面を意味した〈おもてがた〉あるいは〈おもて〉といったことばは、わたしたちのもとで、ほとんど死語にひとしい。真の〈おもて〉に対する生きた感覚は、もう一度いえば、わたしたちのものではないのだ。

わたしたちは、〈素顔〉を信じる。素顔こそ人間のリアリティーであるとおもう。仮面とは、大方、自己同一的な自我の上に外部からかけられた覆いにすぎない。こう信じて、この信念あるいは感覚そのものが、特殊近代的に制約されたものであることをおもってみることはほとんどない。

わたしたちは、いまや、〈おもて〉を、〈表面〉として、〈表象〉として、あるいは〈現象〉としてしか感受しえない。人の〈おもて〉も、また、世界の〈おもて〉も、だ。

このような〈おもて〉の感覚が、特殊近代的に制約されたものであり、いってみれば近代という時代に特有の形而上学の背景の上にはじめて成立していること、さらにいえば、そこに近代という時代そのものの病いのすくなくともいくばくかが由来すること、これらのことを、わたしたちは、いまようやく、予感しはじめる。

近代的・自己同一的な〈自我〉主体が支配し、その〈しるし〉としての素顔のリアリティーが無条件に信じられ、世界は、ただこの自己同一的な〈自我〉の主観・意識という鏡に映った〈表象〉すなわち〈再-現前化〉 re-praesentatio の相の下においてのみとらえられ、それもまた、無条件に世界のリアリティーとして、素顔として信じられる。このような主体と主語の自同性の論理の支配の下においては、真の〈おもて〉の感覚、あるいは真の〈おもてがた〉の感覚、いいかえれば、真の〈変身〉の感覚は、当然失われ、忘れ去られることになるだろう。

(出典：坂部 恵『仮面の解釈学〔新装版〕』東京大学出版会、3-4頁、2009年)

問題2

何らかの作品などに含まれる「交通手段」のイメージや表現について、自由に考察しなさい。具体例はどのようなジャンルのものでもよい。

問題3

次の語句について説明した上で、表象論の観点から考察しなさい（考察の部分では、自分の考えも示してよい）。全8題のうち4題を自由に選択して答えること。文字数は特に制限しないが、それぞれについて必要十分な記述を行うこと。ただし4題分の解答が解答用紙の裏面に収まらなくてはならない。

- (a) SF（サイエンス・フィクション）
- (b) 死の欲動（フロイトの概念）
- (c) 犠牲
- (d) グーグル化
- (e) パニック映画
- (f) 暗号
- (g) 功利主義
- (h) 消費社会